

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-417	ふくしまクリニック 福嶋翔 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Alcohol Cue Processing in Co-Occurring Bipolar Disorder and Alcohol Use Disorder 双極性障害とアルコール使用障害の併発におけるアルコール手がかり処理		
執筆者		
William H Mellick, Bryan K Tolliver, Helena M Brenner, Raymond F Anton, James J Prisciandaro		
掲載誌		
JAMA Psychiatry. 2023 Nov 1;80(11):1150-1159. DOI:10.1001/jamapsychiatry.2023.2726		
キーワード	PMID	
双極性障害の併発機序、右下前頭回と島皮質、低活性化	37556131	
要 旨		
<p>目的：報酬回路の機能障害は、双極性障害とアルコール使用障害 (BD+AUD) の併発機序の候補であるが、まだ十分な研究がなされていない。この機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) 研究は、BD+AUD におけるアルコール手がかり報酬処理に関する初めての評価である。</p> <p>目的は、BD+AUD におけるアルコール手がかり処理が、AUD または BD 単独の場合とどのように異なるかを明らかにすることである。</p> <p>方法：この横断的症例対照研究 (2013 年 4 月～2018 年 6 月) は、2×2 要因デザインに従い、BD+AUD、AUD 単独、BD 単独、および健常対照を対象とした。適格な参加者に対し、よく検証された視覚的アルコール手がかり反応性 fMRI パラダイムを、連続バイオマーカー検査により評価された 1 週間以上のアルコールおよび薬物からの禁酒が証明された後に実施した。研究手続きはサウスカロライナ医科大学で行われた。解析は 2022 年 6 月から 8 月にかけて行われた。</p> <p>モンゴメリー・オースバーグうつ病評価尺度とヤング躁病評価尺度を用いて、過去 1 週間の気分症状を臨床医が評価した。アルコール依存尺度、強迫性飲酒尺度、Barratt 衝動性尺度を質問票に含めた。MRI による全脳機能データは、腹側線条体、背側線条体、および前頭前皮質前葉に位置する先行された関心領域内の信号変化率とともに解析された。また、手がかり反応と行動相関 (アルコール渴望、衝動性、1 回の最大飲酒回数、最後の飲酒からの日数) との関連を探索的に解析した。</p> <p>結果：参加者 112 名のうち、BD+AUD が 28 名 (25.0%)、AUD のみが 26 名 (23.2%)、BD のみが 31 名 (27.7%)、健常対照が 27 名 (24.1%) であった。平均 (SD) 年齢は 38.7 (11.6) 歳、50 人 (45.5%) が女性、33 人 (30%) が喫煙者、37 人 (34.9%) が最近の飲酒を報告した。全脳解析の結果、右下前頭回と島皮質にまたがるクラスター内に BD×AUD の交互作用 ($F = 10.64$; $P = 0.001$; $\eta^2 = 0.09$) が認められた。関心領域分析では、背側線条体内で BD の主相関 ($F = 8.02$; $P = 0.006$; $\eta^2 = 0.07$) が明らかになった。いずれの場合も、BD+AUD の人は、互いに有意差のない他のすべてのグループと比較して、活性化の低下を示した。これらの低活性化は、BD+AUD 患者においてのみ、衝動性および強迫的アルコールへの渴望の増加と関連していた。</p> <p>結論：本研究の結果は、報酬反応性の鈍化と抑制制御の欠陥との潜在的相互作用によって、BD+AUD における報酬機能障害を概念化することが、治療開発戦略の指針になる可能性を示唆している。この目的のために、右下前頭回と島皮質のアルコール手がかり反応の低下は、BD+AUD の新規バイオマーカー候補であり、実行制御を改善するための衝動性関連の神経回路を標的とした薬理的介入に反応する可能性がある。</p>		